

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1) 基礎となる知識や技能を身に付ける資質・能力 (2) 多様な他者と協働的に学習を進める資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1) 朝10分間で「スタディサプリ」や「ドリルパーク」に取り組む「学習週間」を設定する。【年4回。定期テスト前1週間】。 (2) ICTを活用し、自分の考えを他者と共有したり、話しあいながら考えを深めたりする「協働的な学び」の場面を設定する【各単元1回以上】。

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		④結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	各教科において、「知識・技能」を問う基礎的な設問の正答率は、全国・市平均と同等(またはやや上回る)傾向にあるが、「思考・判断・表現」を問う設問、特に複数の情報から必要な要素を見つけ出し、根拠を明確にして自らの考えを記述する設問において、全国・市平均を下回る傾向が見られる。 また、生徒質問紙において、「ICTを活用して学習すること」には肯定的な傾向が見られる反面、「話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりすること」への肯定的な回答が相対的に低い傾向にある。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	定期テスト前の「学習週間」における「スタディサプリ」や「ドリルパーク」の取り組みを通じ、基礎的な知識・技能を反復して定着させようとする学習習慣は身に付きつつあるが、インプットした知識を基に、目的に応じて情報を整理し、自分の言葉で論理的に説明することに苦手意識をもつ生徒が多い。 また、ICTを用いた「協働的な学び」の場面において、他者の意見を「見る(共有する)」段階にとどまっており、多様な意見を比較・検討しながら自身の考えを再構築し、「深める」段階にまでは至っていない実態が見受けられる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B
↓	
学力向上策の 見直し	(変更なし)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所